

北河内地区 中学校 研究討議会報告書

授業者	高砂沙穂	交野市立第三中学校
発表者	恒川実穂	大東市立深野中学校
司会者	河井まどか	大東市立谷川中学校
記録者	丸谷綾実	大東市立諸福中学校
助言者	小林大志	大阪府教育庁 教育振興室 支援教育課 支援学級 G 主任指導主事

1, 授業者より

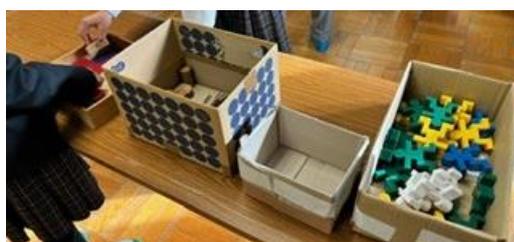
「構図で語る～1枚の写真で感情を伝えよう～」

タブレット端末の写真の機能を使って、構図を確認させる授業を行うようにした。中学校の内容項目の中に、『大胆な構図』・『透視図法』・『三角形構図』を学ぶ機会がある。その中で真ん中にドーンとモチーフを置くのではなく、画面構成の中でなぜここに描くのか・なぜここに配置するのかという部分にこだわりを持って、構図というものを学んでほしい気持ちからこの授業を行いました。

この授業を行う前に、様々な試行錯誤を行う中で、今回は指導案とは違う方法で実施した部分がありました。指導案には、グループで活動するように記載していますが、今回の授業では、グループで行わず、個人で活動するように子どもたちに指示をしました。その理由としては、グループで活動をしてしまうと誰かまかせになってしまうよりも個人でつくりこんでいく、一人でやってみようという方向に変更をしました。

また、授業のはじめにモチーフの感情を読み取るだけではなく、『セリフ』を考えさせることで子どもたちの発想力を高める工夫を行いました。

それから準備物として、たくさんの材料を持ってきました。積み木やブロック、紙コップや紙皿、スポンジやカラー画用紙など様々な素材を準備しましたが、ペンや表情があるもの、大きすぎるものは持ってこないようにしました。



2, 質疑応答

Q:この単元の成績のつけ方はどのように行っていますか。

A:生徒のふりかえりシートより、なぜこの構図にしたのかを考えさせる方法で評価をつけています。モチーフのポーズではなく、“構図で”というところにこだわりを持っているかどうかなどです。

Q:この授業の前の内容を教えてください。

A:事前に、家にあるものを使っておもしろい写真をとってくるという宿題を出し、何が面白かったのか、今度は何をどのように変えたらもっと良くなるか、どういう差があるかという授業内容を行いました。

Q:この授業の良かったことなどを教えてください。

A:写真をとるという活動の良いところは、失敗してもやり直しができることです。試行錯誤を重ね、自分のより良いものをつくりだせます。

3, 実践報告者より

「他者に伝える表現力を育てる」

大東市では、“他者に伝える表現力を育てる”をテーマに、日々実践の中から作品持ち寄りや研究授業・実技研修などを行っています。

今回の実践では、文字やピクトグラムを題材に鑑賞やアイデアスケッチの交流を通して、色や形の工夫に着目しながら、相手に伝わりやすい表現とはどのようなものなのか考えさせました。アイデアスケッチの段階で学習班交流を行うことで、主観だけでなく客観的な視点を取り入れようとする姿も見られた。個人制作になりがちだけど、相手にどう伝わっているのかまで、指導を行いました。

交流の時間を取り入れることで、生徒たちは一層“相手に伝わりやすくするにはどうすればいいのか”という点に目を向けて制作に取り組めたと考えています。また、ふりかえりにも「学習班交流で友達からアドバイスをもらい、もっと伝わりやすい表現にかえることができた」や「自分の考えたアイデアはちゃんと伝わりやすいということが分かった」などの記入が見られたので、今後も意識していきたいです。

4, 質疑応答

Q: アイデアスケッチはどうしても時間がかかると思います。交流での声掛けやどのタイミングで交流をしているのかを教えてください。

A: 生徒どうしの交流の中では、相手のことを否定せずどうすればいいように見えるのか、いい表現になるかを伝え合うように指示しています。
交流のタイミングは、個人時間 15 分、交流時間 15 分と時間をはじめに指示しています。

Q: アイデアスケッチの段階でほかにも工夫している先生方いらっしゃいますでしょうか。

A: 作品を見せ合う機会をつくっています。ICT やロイノート(途中経過)の活用やモニターに何か映っている状態にしています。

A: ICT 活用として、制作手順を配信するようにして、生徒によって必要なタイミングで必要な工程を確認できるように工夫しています。例えば、レタリングの枠線などです。

A: グループ制作を生徒にさせていた時は、立体の展開図を作らせる時に、グループの中で組み立てる子、つくる子、など班の中で役割を立てて実施させていました。また、3年生の卒業制作でスタンドグラスをつくらせた時、個人で考えたことをグループでミックスさせて作品を完成させたこともありました。

5, 指導助言者より

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善及び表現と鑑賞の指導の関連を図るということは、“学習する子どもの視点に立つ”ことを大切に、「楽しそう、やってみたい」、「できたよ！次はこうしよう！」、「うまくいかない…こうすればいいんだ！」などの子どもたちのつぶやきや活動の様子を思い浮かべながら、授業の計画を行うことです。“つまずき”も大切な学びであることも伝えていきましょう。子どもたちが安心して、失敗しても良いということを大人も子どもも共有した上で、子どもが自己調整できるように指導計画を立てていきましょう。

令和4年度学習指導要領実施状況調査より、「思考力・判断力・表現力など」の育成に向けて、主体的に発想や構想をすることを大切にする指導、つまり子どもたちの主体性を信じていくことが大切です。時に教員の働きかけとして、導入を丁寧にしすぎてしまうことも課題であると考える、子どもたちが主体的に試行錯誤しながら考えられるようにすることが大切です。

限られた時間でどんな内容をさせるのか、個人なのか・グループ活動なのか、何のためにやっているのかを意識しながら、効果的な方を選択していきましょう。